

ちよつと危ない色艶都々逸  
笑って許して！Part3  
短冊本



ゆうほ

つぼみ膨らむ

桜の枝に

君の息吹は

春風か

ゆうほ



出来たお多福

おまえ

に似てる  
いつも笑って

福がある

…福笑い

ゆうほ



おまえお多福

おれひよつとこさ

ほかに何いる

笑いだけ

ゆうほ



君の手の上

舞うお手玉は

おれの姿か

運命か

ゆうほ



前にのせたり

後ろでのせる

はてはとが  
つた

上に乗る

三けん玉

ゆうほ



大老以下の

まっりの仕組み

今と同じや

ないかいな

…家康

ゆうほ



いやいや結構  
言つつ

手出る  
三杯飲む

めば  
つげという

ゆうほ



論より証拠と  
襦に入り

あの手この手と

さすかたち

ゆうほ



花より団子  
子供の遊び  
オイラ花より

花魁さ

ゆうほ



行きつ戻りつ

季節はかわり

梅の香りに

なごり雪

ゆうほ



怖いものなど なんにもないの

命ひとつを 残すだけ

さくら

ひとつ命を 残せることが

ふたりしてする 物がたり

ゆうほ



あなたのために お役にたてば  
惜しくはないの この命

さくら

俺はろうそく おまえは芯で  
ふたりいなけりや 灯りなし

ゆうほ



心変わりはい  
しなひと言つて  
肌のいれずみ  
あちこちに

ゆうほ



逢わずにいたら  
契もせぬに  
定めうらめし

忍ぶ恋

ゆうほ



ぬしに惚れよと  
身を飾るとも  
出るにでられぬ

籠の鳥

ゆうほ



あたま抜ければ  
イジメに

あうわ  
横一線の

やまどびと

ゆうほ



逢瀬の後の  
朝霜ふんで  
家路へ急ぐ

君憎い

ゆうほ



あんなに愛して 結ばれてたに  
どうして別れにや ならないの  
知らず知らずに 心の色が  
気が付きや 君が いない今

さくら

ゆうほ



ぬしに手おられ  
火を付けられ  
寝かされ  
灰になる  
線香

ゆうほ



つぼみ膨らむ

桜の枝に

君の息吹は

春風か

ゆうほ



燃えた後では  
手遅れなのよ

親孝行と

消防車

ゆうほ



ぬしの為なら

死ねると誓う

禰のわたしは

しぬしぬと

ゆうほ



終着駅は

わかっちやいるが

どこきどうして

いく浮世

ゆうほ



たった一夜の  
恋する蝉も  
長い年月

土の中

ゆうほ



三味も唄ない

ひとの

世なんて

闇墓場じや

ありやせぬか

ゆうほ



遊びをせんと

生まれたたからにや

情けないなら

人でなし

ゆうほ



月下美人は

わたしと同じ

愛のしずくを

待ついのち

ゆうほ



方にひとつの  
心変わりに

入れた墨まで

憎くなる

ゆうほ



ほぞをかんでも  
せんないものを  
もしももと  
くりかえす

ゆうほ



嘘を承知で

騙されたいと

言われりや本気

なるあたし

ゆうほ



どんな子供で あってもいいさ  
蛙の子供は 蛙の子

さくら

蛙の子でも 花咲く頃にや  
月も見えろし 恋もする

ゆうほ



思うようには いかないことが

あたりまえなの あきらめて

さくら

思う通りに なるこの世なら

お前惚れさせ 添い遂げる

ゆうほ



口で別れは  
いらな

いことよ  
目を見り

やわかる

恋舞台

ゆうほ



ぬしを呼び寄せ  
花蜜とえ

我身枯れても

実は残す

…花の命

ゆうほ



いつそ戻して  
君会う前に  
ただの他人で  
出逢いたい

ゆうほ



千里見通す

眼を  
持

つ妻に  
二枚舌

では  
勝ては  
せぬ

ゆうほ



酔ったふりして しなだれかかり  
帰したくない 雪の夜

さくら

雪が後押し  
ふたりの定め  
心に残る 夢ごよみ

ゆうほ



思う気持ちの 半分さえも

言えぬつらさを 酒に捨て

捨てた気持ちを 拾って呑んで

酔った振りした 恋酒場

さくら

ゆうほ



呑めないお酒を ぐいぐい呑んで  
あなたに絡んで みたいもの  
他に絡める 所はないと  
分かり嬉しい 君の愛

さくら

ゆうほ



つもる恨みを

さらりとどかし

こたつの中の

ゆきみ酒

ゆうほ



別れて君を

見守るよりは

むしり取っても

愛したい

ゆうほ



良いも悪いも  
すべてが

あたし  
それを承知の

恋ならば

ゆうほ



浮気うぐいす  
梅に振られて  
一声鳴いて

姥桜

曆恋





そんななにかつく 抱きこまないで  
骨がきしんで 折れそうよ  
骨が折れよと 俺杖になる  
後は一緒に 灰になる

さくら

ゆうほ



君が玉なら

オレ砥石なる

君の為なら

身を削る

ゆうほ



分からないから

恋人のまま

全て知ったら

古女房

ゆうほ



あなたの胸に 抱かれた夜は  
ひたひた満ちる 夜の潮

さくら

帯をほどいて 漕ぎだす舟は  
潮の満ち引き 君任せ

ゆうほ



別れ涙に

おぼれるよりも

うれし涙に

おぼれたい

ゆうほ



頭良いうえ

鼻利く妻は

サツの犬なら

オレはホシ

ゆうほ



春の淡雪

すぐ消えるけど

あなたの面影 消えないの

さくら

溶けた淡雪

涙になって

面影おぼろ 月かすむ

ゆうほ



盃持って 目だけで合図

わざと置いてく 忘れ傘

路地で待ってる きみ呼ぶ声を

ひとつ傘なか 重ね影

さくら

ゆうほ



夜泣きする子の  
涙を拭けば  
可愛さ募り

苦勞消え

ゆうほ



浮世一杯

生きてきたのに  
なんで地獄が  
あるのやら

ゆうほ



六道銭など

必要ないさ

小唄うたって

三途川

ゆうほ



異国湯けむり

川面をおおい

湯上り娘が

小橋立つ

…台湾北投温泉

ゆうほ



湯船でかわす

やまどの言葉

何も背負わず

人と人

：台湾北投温泉にて

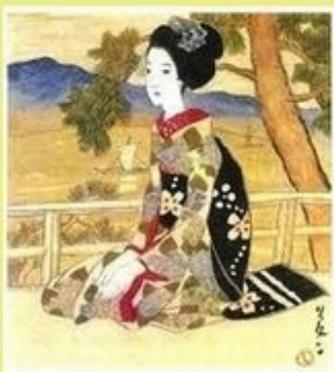
ゆうほ



前世は連枝さ  
離れていても  
いつか交わる

恋の枝

ゆうほ



相生結びで

えにしを結び

解けぬ

何故切れる

ゆうほ



我子托して  
行かねばならぬ  
すまぬ位いてか  
不如帰

ゆうほ



君の色艶

この世とあの世

合わせ一番

惚れた馬鹿

ゆうほ



わたしの心の 未練のように  
長く尾を引く 笛の音

さくら

月夜裂くよな 横笛聞けば  
我身裂けそな 恋の笛

ゆうほ



妻と毒の字

どこかが似てる

ちよつと違えば

恐ろしい

ゆうほ



足で踏まれた

タンポポさえも

花咲き君を

追って飛ぶ

ゆうほ



一緒に「う」がつきや  
一生になる

せめて浮世の  
終わりまで

ゆうほ



夜毎聞こえるあの笛の音は  
妻をさがして鳴く鳥か

さくら

ひとの妻ゆえ耐えねばならぬ  
涙枯れはて不如帰

ゆうほ



ひとり寝るとき  
ぬしの名呼んで  
枕叩いて  
腕枕

ゆうほ



人生勝負

ためらううちに

ぬるま湯出られず

風邪をひく

ゆうほ



おまえにつられて  
覚悟を決めた  
骨になっても  
そばにいる

ゆうほ



ここは一番

良い顔すてて

閻魔さまなり

孫説教

ゆうほ



はらりこぼれる

涙は嘘か

嘘からほんとに

かわる恋

ゆうほ



今年も見れぬ  
桜はしだれ  
咲いて満月  
写せよと

ゆうほ



あなたの大きな その手がこわい  
子猫を抱くよに そつとして

さくら

抱いたおまえの 爪牙怖い  
子猫虎なる 関の中

ゆうほ



風に飛びのり

あなたのもとへ

そんなタンポポ

うらやまし

ゆうほ



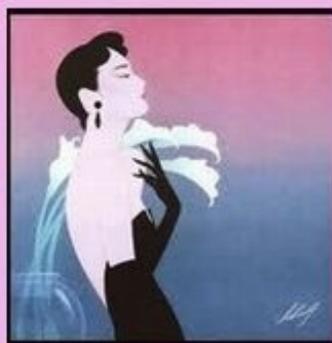
蝶よ花よと

育てたおまえ

何で蛾となり

月見草

ゆうほ



花は散っても

実は膨らんで

人を酔わせる

梅酒なる

ゆうほ



海が荒れよと

必ず帰る

可愛いおまえが

待つからにや

ゆうほ



あたしの煩惱  
河原の

石よ  
鐘鳴り

やまぬ  
年の暮

ゆうほ



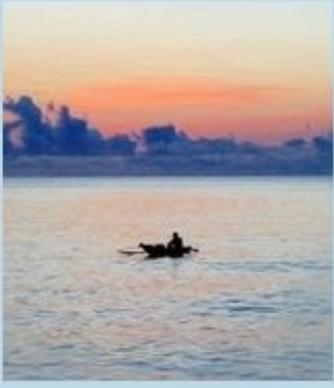
捨てたつもりの  
煩惱なのに  
拾うあの人  
又逢う

ゆうほ



失くした恋が  
夜空に光る  
進ってペナンの  
十字星

ゆうほ



槍と角とで

喧嘩をせず

鞘に入れよう

関の中

ゆうほ



ふたり逢う夜

小雪が

舞えば

心ひそかに

大雪を

ゆうほ



勢いだけで  
繋いだからだ  
それで繋がる  
首に綱

ゆうほ



気をつけなさいよ 気を許しては

今に落ちるわ 食虫花

さくら

真の恋なら 落ちよとおもう

主の肥やしの 食虫花

ゆうほ



月夜砂浜

波音静か

安らか眠れ

若き兵

ゆうほ



腰は曲がつて

葉も抜け落ちる

ボケの花咲きや

一人前

ゆうほ



あなたついたら  
わたしは鳴るの  
ふたり  
禊の  
除夜の鐘

ゆうほ



一期一会の  
都々逸ひねる  
人の迷惑  
顧みず

ゆうほ



あなたあつての  
色艶なのと  
いつか逢いましよ

都々逸で

ゆうほ



ゆうほ作 ちょっと危ない色艶都々逸Part1 完結

<http://p.booklog.jp/book/18432>

ゆうほ作 ちょっと危ない色艶都々逸Part2 完結

<http://p.booklog.jp/book/18285>

ゆうほ作 ちょっと危ない色艶都々逸Part3 完結

<http://p.booklog.jp/book/20624>

ゆうほ作 ちょっと危ない色艶都々逸Part4 完結

<http://p.booklog.jp/book/21269>

ゆうほ作 ちょっと危ない色艶都々逸Part5 執筆中

<http://p.booklog.jp/book/22137>

ゆうほ作 ちょっと危ない色艶都々逸 文章編 執筆中

2011年2月14日から

<http://p.booklog.jp/book/17722>

両本とも毎日更新連載中です。

コメント、評価(ログイン時可能)をも書き込みお願い致します。

ゆうほ

ペナンの海より